

「勇敢に生きる」

～ホメオスタシスⅡ～

I テモテ6：11～12

聖書にはいくつも「恐れるな」という言葉がでてきます。その恐れるなという言葉を実感的にどう現わせばいいのでしょうか。「恐れな」という生き方はどうやったらいいのでしょうか。「恐れな」の反対は何でしょうか。＊しかし神の人よ。信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。信仰の戦いを勇敢に戦い永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。(I テモテ6：11～12) 聖書には「勇敢であれ」といろいろなところに書いてあります。あなたは何のために召されたのですか。と聞かれています。「勇敢に戦いぬく」とかいてあります。＊私がこれらのことをあなたがたに話したのはあなたがたにあって平安を持つためです。あなたがたは世にあっては患難があります。しかし勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。(ヨハネ16：33) 患難に合うことが大前提で私たちはクリスチャン生活を歩んでいきます。その人生の中で大事なことが勇敢であれとかいてあります。私たちのクリスチャン人生がもし祝福を失っているのであればこの事なのです。クリスチャンが祝福を得られていないのはいくつか理由があります。イエス様が一緒にいるにもかかわらず何らかの問題が起きているならばあなたの中にある「恐れ」なのです。あなたが何かを踏み出そうとするとときに恐れが生じます。最近若い世代では「恐れ」より「怠惰」があります。何かを恐れる行動からそれすらも諦めてしまつて怠惰となります。恐れがあるのなら自分を保とうとして証しです。もしあなたの人生で恐れがあるのなら、この一年間も変化のない一年になってしまうでしょう。私達は絶えず進む中で平安を得なければならないのです。これがクリスチャンのメッセージです。ホメオスタシスとは、恒常性(何かを保とうとする)という言葉。あなたが新しいところに進んでも、あなたがあなたでいられるために、この恒常性があるのです。大切なことは私達が自らの中にこの恒常性を持つという事なのです。本来の恒常性を持って、あなたが変われなくなっているあなたをとらなければならないのです。今、私たちが熱心に本気でやっていることは去年のあなたを保つことです。今年は変わると思い勇敢に生きるのです。

1. 頑なと勇敢はちがう 神の国に近づく

相手がどういう出方をしても素直で正しい出方をする。これがクリスチャンの祝福の秘訣なのです。相手がどう出ても自分の生き方を貫く事が勇敢であるという事なのです。なぜかという相手の状況がどうであれ私は神様と共に生きるという強い信念は結果、実を結ぶからです。勇敢というのは先が見えないとできないのです。私たちの戦いは勝てるからするのです。聖書は勝てる戦いをあなたに用意してくれているのです。勝利するのを自らあきらめてしまうのです。不安や心配はいらないのです。＊そこでイエスはこう言われた。「神の国は何に似ているでしょう。何に比べたらよいでしょう。それはからし種のようなものです。それをとって庭に蒔いたところ成長して木になり空の鳥が枝に巣をつくりました。また言われた。「神の国は何に比べましょう。パン種のようなものです。女がパン種を取って三サトンの粉に混ぜたところ全体がふくれました。」(ルカ13：18～20) このからし種とパン種に共通しているところがあるのです。どちらも自分で何もやっていないのです。種を蒔いたら大きくなる。菌を入れたら膨らんだのです。みんな地のエネルギーと微生物を使って膨らんだのです。自分では何もしていないのです。神の国とはどんなものかといったらその種はその地に適応しようとしたこと、パン種もその中で自分の状況を保ったという事なのです。ホモイオスとは同様な類似の似ている同じホモイオとは、比べるスタシスとは存立 存続 これでホメオスタシスとなるのです。恒常性というのは聖書なのです。そのあり方とは何なのかといったら神の国なのです。みなさんが神の国の存在であるものでありあなたがイエスキリストのような姿で似せて作られた事を保てばあなたはそこで存在し続けるのです。これが祝福の源であり結果あなたは神の国と近づく

のです。なので「恐れるな」「勇敢であれ」と伝えているのです。これが人間の中心なのです。あなたの存在の姿を保つという事が神様のあなたに対する目的であってその姿を保つ方法は何なのかといったら勇敢なのだと書いてあるのです。

2. 心の勇敢さ 聴く、素直

皆さんがいかに聴く素直であるかという事がこの勇敢さを保つ秘訣なのです。勇敢な状態というのは子供が父親の胸に飛び込んでくる姿なのです。高いところから飛ぶ姿なのです。絶対に受け止めてくれるという信頼があるからなのです。これが素直さなのです。私達が信じて踏み出す事を神様は祝福するのです。そこで聴きがあるのです。鳩のように素直で蛇のように聴くありなさいとあります。この聴きがある神の国なのです。神の国の聴きとはその場しのぎじゃないという事なのです。神様の国というのは将来と希望なのです。壊れたものが回復する。失われていたものが見いだされる。閉じられていたものが開く。これが神の国なのです。人間では無理だったものが神の国では無理ではないのです。ですから、私たちは将来を見る目線で見ていくのです。そして聴くあるのは大丈夫かどうかをちゃんと見つめられるのです。やっていくことが正しく目的がなっていて、そしてその心がふさわしくて神の御国の栄光を現す事である。このことは絶対にうまくいきます。聖書は試せといっているのです。

3. 捧げる勇敢さ

ここで私たちは種を蒔くという勇敢さが必要なのです。神様はあなたの人生をかみさまのために使えるかどうかなのです。今年もし、みなさんの人生を豊かに祝福させたいと、そしてあなたの目的を果たして多くの人々に自らの関わる人に幸せに歩むのだと決心するのなら私たちは勇敢にこの3つの事をやらなければなりません。頑なであることを捨て、そして自らが信じて、そして捧げていかなければならないのです。

＊しかしあなたはどのような場合にも慎み困難に耐え伝道者として働き自分の務めを十分に果たしなさい。(テモテⅡ4：5)

自分の務めを十分に果たす。これを十分の一をかけて捧げるのです。自分の務めとしてです。

神様の為に蒔くときに必ず神様は心を変えてくれるのです。神様の計画は心がホメオスタシスする事なのです。本当に自分を保つ事を神様は求めています。あなたがあなたで保たれる事を願っているから、今ある患難は私たちにとって患難ではないのです。後に過ぎ去っていけばあなたが見る栄光に比べればとるに足りないのです。今年こうやると決めたことをやらなければいけません。あなた自身があなたに戻るため今年一年命をかけてその事を成し遂げる。これがとても大切なのです。そうすると、必ず祝福されます。私達は素直に神様の前に出て捧げていくのです

まとめ

私たちは目線を変えることです。今を見てないでしょうか。什一献金を捧げて下さい。神様は保証します。あなたの心が変わり、あなたの人生が変わり、あなたが祝福されます。私達に犠牲の種蒔きが必要です。頑なな心を取り去り勇敢でなければいけません。その勇敢を取り去るのは現実という言葉です。この現実を神の将来と希望によって作り変えていくのです。神様はこの現実の世界に大いなる奇跡をもたらします。